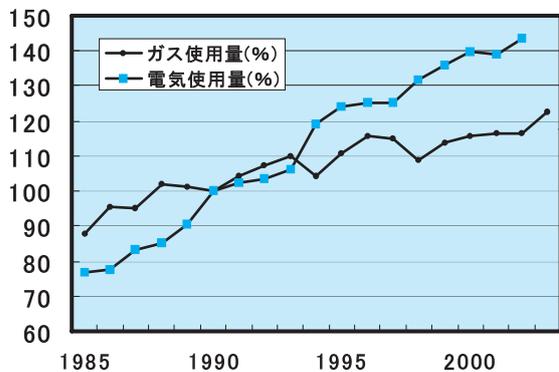
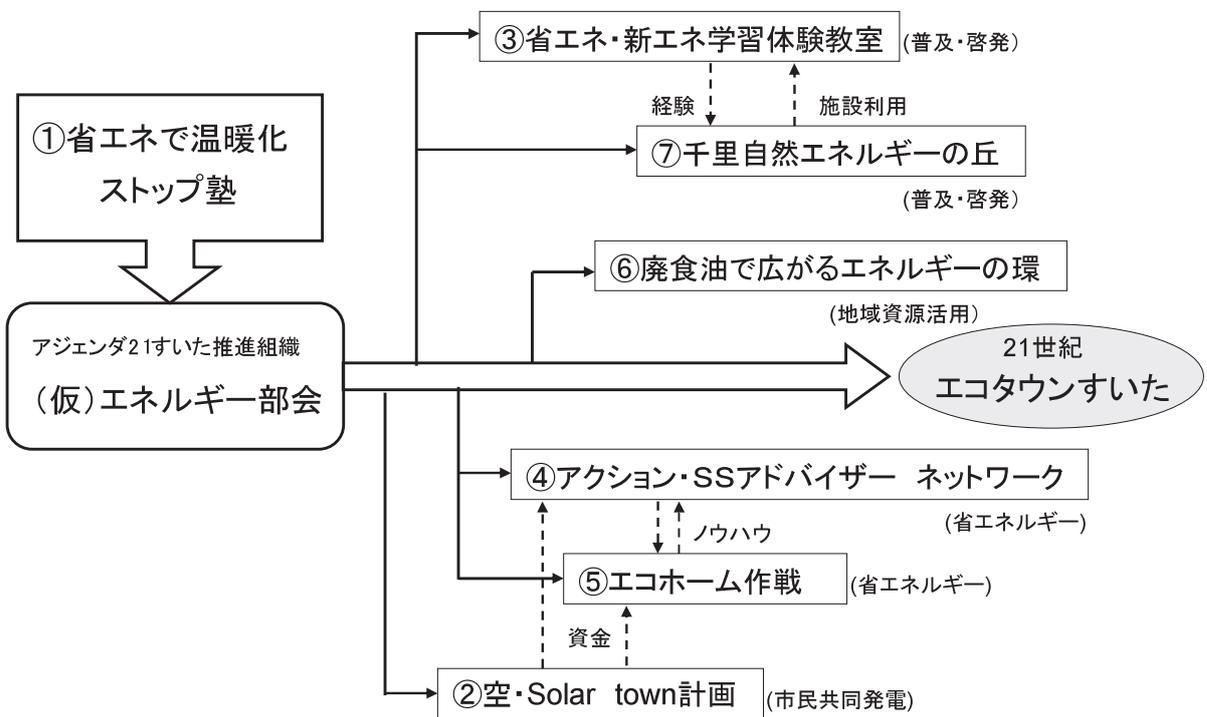




エネルギー 明るいまちすいた

私たちには夢があります。屋根には太陽光パネルがつき、街を明るく照らしている。
 そして近くの公園には風車がやさしく回り、みんなが使う電気を作る。
 吹田の街が限りあるエネルギーを大切にし、人にも地球にもやさしいエネルギーを使い、
 使う人の心もやさしく明るくなる。
 これが、私たちがめざす「明るいまちすいた」です。

私たちは、このようにプロジェクトを進めていきます



吹田市における家庭用エネルギーの使用量は1990年と比較すると電気は144%、ガスは123%と増え続けています。

“省エネ”で温暖化ストップ塾

○ 目的・効果

【主たる目的】 省エネ行動の普及啓発、省エネ行動の中心的な役割を担う人材の育成

【波及的効果】 地球温暖化防止

○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、学識経験者、市民団体（環境NPO、エネルギー関連事業者、行政

○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

○ 何をするか〈内容・手法〉

1. 学習テーマ・講師の検討

「推進組織」に「(仮称) 温暖化ストップ塾企画運営チーム」を設置し、学習テーマや講師の検討を行う。

2. 「省エネで温暖化ストップ塾」の設置

(1) 学習テーマ

「地球温暖化の現状」、「家庭における省エネ型ライフスタイル」など各分野の省エネ取組みの学習と省エネプロジェクト活動の推進、運営に関するノウハウの習得

(2) 講師

学識経験者、市民団体（環境NPO）、エネルギー関連事業者、行政など

3. 塾の修了生の活動

塾の修了生は、各自が得意分野で「省エネコーディネーター」になり、アドバイザーとして、市民の省エネ行動の啓発に努める。

4. 塾の修了生に対する支援・参加呼びかけ

「推進組織」は、塾の修了生の活動を支援するとともに、他の行動プロジェクトへの参加を呼びかける。

5. (仮称) エネルギー部会の設置

「推進組織」に「温暖化ストップ塾企画運営チーム」、塾の修了生、塾の講師などで構成される「(仮称) エネルギー部会」を設置し、地球温暖化防止活動を推進する。

○ 活動の期間

1年目：学習テーマ・講師の検討

2年目～：塾の運営

3年目～：(仮称) エネルギー部会の設置

○ 予算〈概略：収入と支出〉

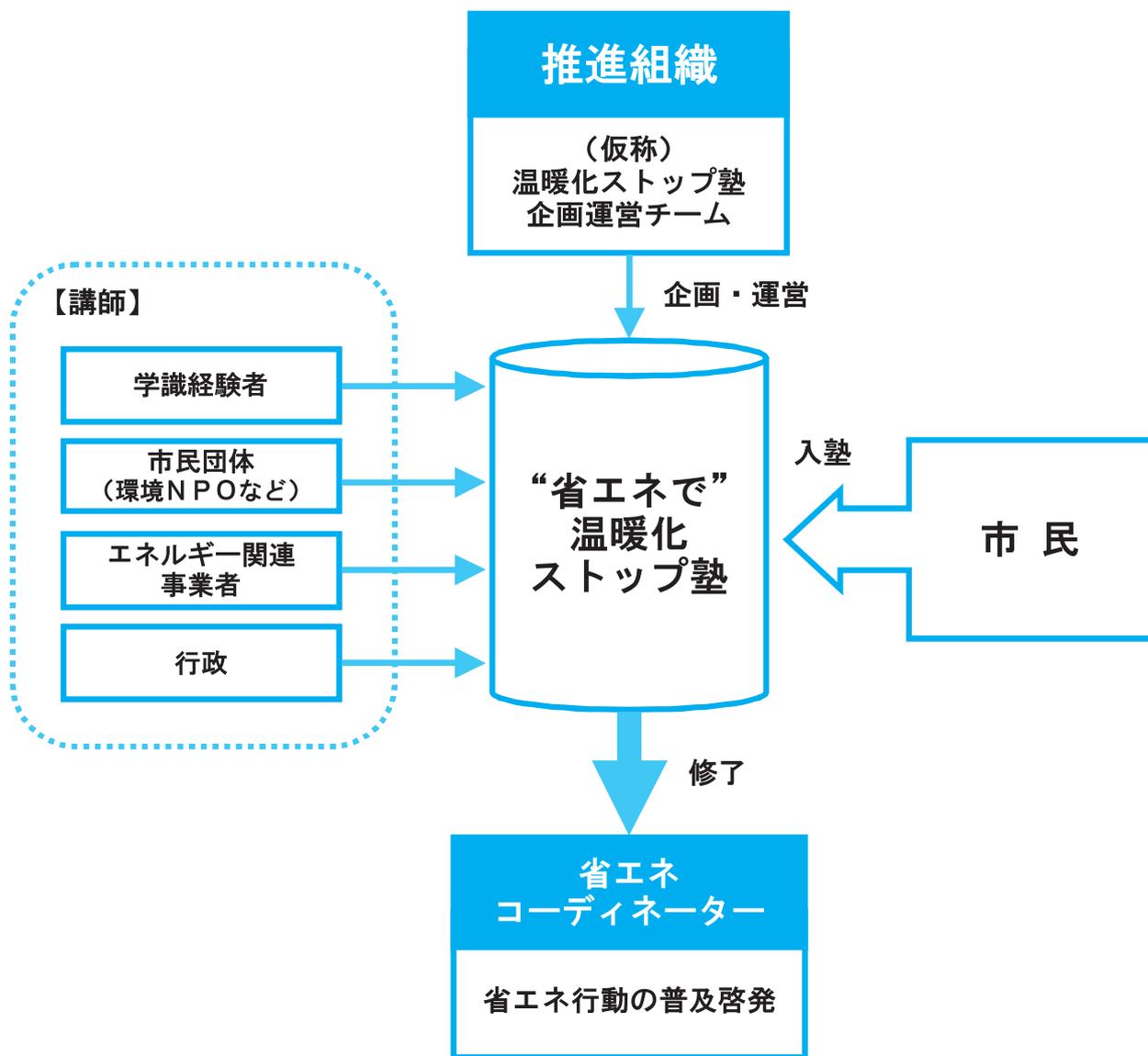
収入：塾参加料

支出：講師謝礼金、資料作成代など

○ 評価の基準

・「省エネで温暖化ストップ塾」修了生数 ・「(仮称) エネルギー部会」参加者数

■ プロジェクト概要図



空・Solar town 計画

(ソーラーシステムで成り立つ街づくり計画)

○ 目的・効果

【主たる目的】行政から独立したグリーンファンドの設立、自然エネルギーの普及

【波及的効果】省エネ型ライフスタイルの普及

○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、温暖化ストップ塾修了生、市民、市民団体

○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民、公共施設

○ 何をするか〈内容・手法〉

1. 調査・研究

「推進組織」に温暖化ストップ塾修了生や自然エネルギーの普及を願う市民・市民団体などで構成されるグリーンファンド設立準備会を設置し、各地のグリーンファンドの活動や仕組みの調査・研究を行う。

2. グリーンファンドの設立

グリーンファンド設立準備会が会員募集を行い、グリーンファンドを設立する。

3. グリーンファンドの概要

(1) 基金の募集・管理運営

- ① 会員（市民、市民団体、事業者など）からの定期的な会費（300円/月程度）
- ② ソーラーパネル設置プロジェクト参加者からの寄付金（1口3,000程度）
- ③ 市民や市民団体などからの募金（節電・省エネ分程度の額）
- ④ 設置者からの寄付（発電からの一定額）
- ⑤ 普及啓発事業などでのアドバイス収入

(2) 自然エネルギーに関する情報収集・普及啓発・調査研究

(3) 設置場所の選定

公募により決定する。（自己資金や設置後の学習計画などを考慮）

(4) 設置後の支援

設置した場所が、地域の環境学習や環境情報発信の場として機能できるよう支援する。

⇒「省エネ新エネ学習体験教室」（p20）などに活用

○ 活動の期間

- 1年目：設立準備会の設置・調査研究
2年目～：グリーンファンドの設立・運営

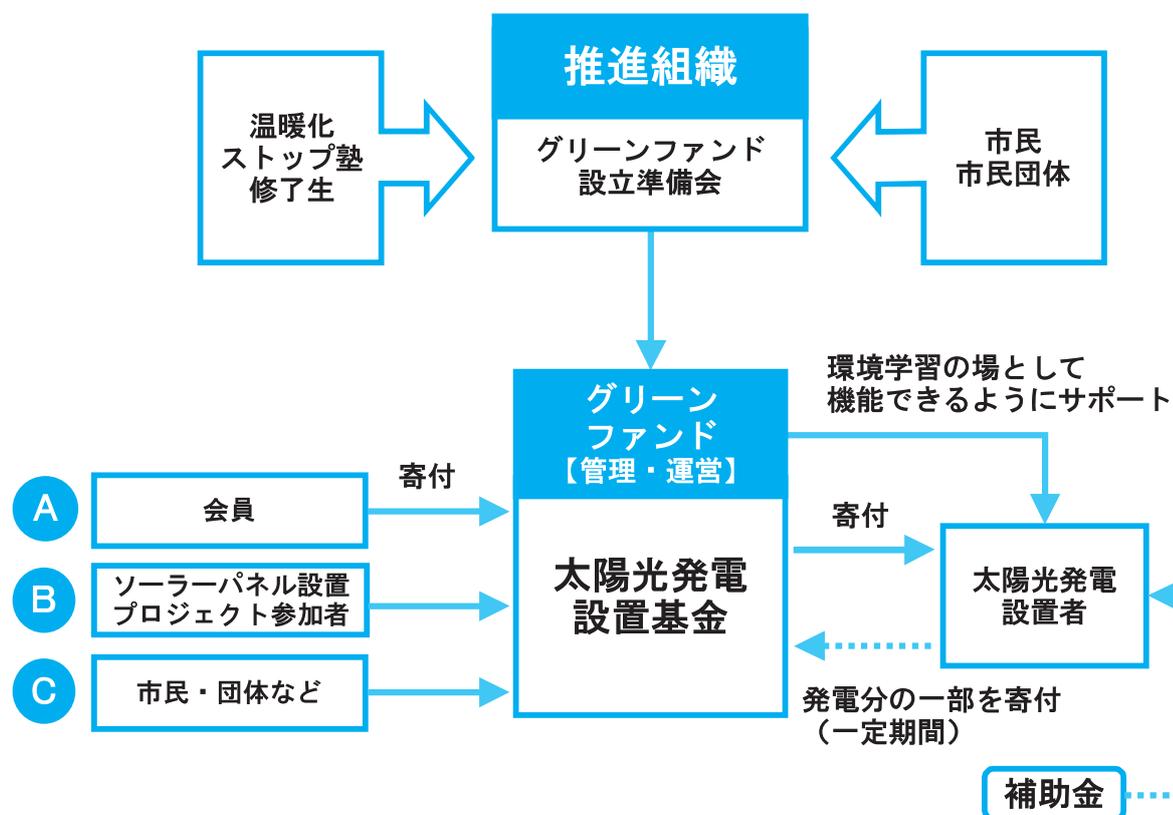
○ 予算〈概略：収入と支出〉

収入：会費、寄付金、募金など
支出：調査研究費、自然エネルギー施設設置費用など

○ 評価の基準

- ・グリーンファンドによる自然エネルギー施設設置数 ・グリーンファンド会員数

■ プロジェクト概要図



- A** グリーンファンド会員として、月額一定の会費を基金に寄付
- B** ソーラーパネル設置プロジェクト参加者として、設置者に対して寄付
- C** 家庭や事務所などに置く募金箱方式。貯まれば基金に寄付

省エネ・新エネ 学習体験教室

○ 目的・効果

【主たる目的】子供たちに対する省エネ・新エネ学習

【波及的効果】大人に対する省エネ行動の普及

○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、温暖化ストップ塾修了生、市民、市民団体

○ 誰（と誰）に〈対象〉

学校（総合的な学習の時間などを利用）、幼稚園、保育園

○ 何をするか〈内容・手法〉

1. 「省エネ・新エネ学習プログラム」の検討・開発

「推進組織」に温暖化ストップ塾修了生などで構成される「(仮称)省エネ・新エネ学習体験教室推進チーム」を設置し、学校での環境学習の実態やニーズを調査し、吹田にふさわしい「省エネ・新エネ 学習プログラム」を検討・開発する。

2. 「省エネ・新エネ学習プログラム」の概要

(1) 省エネ行動実践教室

家庭での省エネ・新エネ行動の情報提供・実践など

(2) 自然エネルギー体験教室

自然エネルギー施設の見学、太陽光発電パネルなどを作った手作り工作教室など

3. 学校・幼稚園・保育園への授業提案

「省エネ・新エネ 学習プログラム」を学校・幼稚園・保育園に提案して、応募を募る。

4. 省エネ・新エネ体験学習教室の実施

「(仮称)省エネ・新エネ 学習体験教室推進チーム」が窓口となって、応募があった学校との調整を図り、講師を派遣し、「省エネ・新エネ体験学習教室」を実施する。

○ 活動の期間

- 1年目：推進チームの設置
- 2年目：学習プログラムの検討・開発
- 3年目～：学習教室の提案、実施

○ 予算〈概略：収入と支出〉

- 収入：講師謝礼金
- 支出：学習プログラム開発費

○ 評価の基準

- ・省エネ・新エネ学習体験教室実施回数
- ・子どもの省エネ・新エネに関する理解度（アンケートなどによる）

アクションSS・アドバイザーネットワーク

○ 目的・効果

- 【主たる目的】 吹田市内における事業所、行政施設の省エネ（S）・省資源（S）の実現
 【波及的効果】 省エネ・省資源型オフィススタイル、事業スタイルの普及促進

○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、市民、商工会議所等事業者団体

○ 誰（と誰）に〈対象〉

行政、事業者

○ 何をするか〈内容・手法〉

- 「推進組織」の中に、事業所、行政施設の省エネに興味・関心のある市民らと「アクションSSチーム」を立ち上げる。
- 「アクションSSチーム」が以下の活動を行う。
 - 対行政
 「吹田市役所エコオフィスプラン」が着実に実行に移されているか観察・点検等を行うとともに、必要に応じて問題点の指摘や改善提案を行う。その為、毎月順次公共施設の見学会等を行う。
 - 対事業者
 「アクションSSチーム」は「省エネガイド」を作成し、商工会議所等事業者団体と連携して中小の事業者に普及を図る。
- 「アクションSSチーム」への協力および対応
 - 行政は、「アクションSSチーム」の施設見学を受け入れる。また、問題指摘や改善提案を受ける窓口を設け、必要な対応をしてその結果を「アクションSSチーム」に返す。
 一方、行政は「アクションSSチーム」の改善提案を受入れ実施して得られた経済的効果の一部を、「エネルギー部会（仮称）」が企画する諸プロジェクトの活動・推進のため、活動メンバーらの合意のもと、グリーンファンド（p18）に資金提供する。
 - 商工会議所等事業者団体は、中小の事業者への「省エネガイド」の普及に協力する。
 - 中小の事業者は「省エネガイド」を事業活動に活かし、それにより得られた経済的効果の一部を、「エネルギー部会（仮称）」が企画する諸プロジェクトの活動・推進のため、活動メンバーらの合意のもと、グリーンファンド（p18）に資金提供する。

○ 活動の期間

1年目：アクションSSチームの設置
 2年目～：活動

○ 予算〈概略：収入と支出〉

収入：改善提案実施による経済的効果
 支出：省エネガイド制作費

○ 評価の基準

- ・提案件数及び実行件数（可能なケースについては経済的効果も併用）
- ・「省エネガイド」に基づいた行動をとった事業者数（可能なケースについては経済的効果も併用）

エコホーム作戦

○ 目的・効果

【主たる目的】 日常生活における省エネルギーの普及促進

【波及的効果】 地球温暖化防止、エコタウン構想への展開

○ 誰（と誰）が〈主体〉

推進組織、温暖化ストップ塾修了生、市民、市民団体

○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民、小規模事業者

○ 何をするか〈内容・手法〉

1. 「(仮称) エコホームチーム」の設置

温暖化ストップ塾活動を通じ、住まいの省エネに対する関心を高め、「推進組織」に温暖化ストップ塾修了生や住まいの省エネに興味・関心のある市民・市民団体が構成される「(仮称) エコホームチーム」を設置し、活動計画の立案を行う。

2. 「エコロジー（環境共生型）住宅ガイドライン」の作成

(1) 対象

一般戸建て住宅、マンションなど

(2) 内容

- ① 市民にメリットのあるライフスタイルに合わせた建物と付帯設備の総合的なガイドライン（「現状レベルでの節減法」「リフォーム時」「新築時」に分けて作成）
- ② 雨水利用、コージェネ、断熱構造、省エネ機材、新エネ機材等に関するガイドライン

3. ガイドラインのPR活動の展開

(1) 家庭での省エネ・省資源行動実践のための情報提供、提案、アドバイス

（吹田市独自の環境家計簿や家電製品トップランナーリストの作成など）

(2) チェック体制づくり、認証制度・優遇制度などの構築

- ① 緩やかな規制とチェックができる体制づくり
- ② 認証制度実現に向けた働きかけ、優遇制度（低利融資等）の検討
- ③ 優れた事例の表彰制度

4. その他

省エネに関する調査、研究の一環として、吹田市の現状解析と吹田の特定地域を想定した地域冷暖（分散電源）、地中熱利用等の新技術の調査検討と実験検証。

○ 活動の期間

1年目：エコホームチームの設置

2～3年目：ガイドラインの作成

4年目～：PR活動、認証・優遇制度の研究

○ 予算〈概略：収入と支出〉

収入：ガイドライン販売

支出：調査・研究費、ガイドライン作成費

○ 評価の基準

・ガイドラインの作成 ・家庭からのCO₂排出量

廃食油で広がるエネルギーの環

○ 目的・効果

【主たる目的】 廃食油のリサイクル、有効利用

【波及的効果】 環境意識の向上、地域住民間のつながり強化

○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、市民

○ 誰（と誰）に〈対象〉

市民

○ 何をするか〈内容・手法〉

1. 廃食油回収システムの研究

「推進組織」に温暖化ストップ塾修了生や廃食油の有効利用に興味・関心のある市民・市民団体が構成される「廃食油回収システム研究会」を設置し、地域における廃食油の回収システムの研究を行う。

2. せっけん作りから始める廃食油回収システムの提案

地域に対して、行政と連携し、廃食油を使ったせっけん作り講習会などを開催し、廃食油回収システムの構築を提案する。

3. 廃食油回収アドバイザーの育成

地域での廃食油回収システム運用の中心的な役割を果たす人材（＝廃食油回収アドバイザー）の育成を行う。

4. 各地域への展開

廃食油を使ったせっけん作りを通じ、廃食油回収システムを各地域に展開する。

5. BDF（バイオディーゼル燃料）への再利用研究

各地区の廃食油回収アドバイザーと連携し、BDFへの再利用を調査・研究する。

（1）BDFに関する研究・先進事例調査

（2）受け入れ先（精製業者）の研究

（3）用途の研究（コミュニティバス、自動車、ボイラー、ゴミの助燃剤等）

○ 活動の期間

1年目：調査・研究

2年目：回収システムの提案

3年目～：継続実施

○ 予算〈概略：収入と支出〉

支出：調査・研究費、回収容器、せっけんづくり経費、

○ 評価の基準

廃油の回収量、廃油回収参加世帯数

千里自然エネルギーの丘

○ 目的・効果

- 【主たる目的】 自然エネルギーの活用
 【波及的効果】 自然エネルギーに関する普及・啓発

○ 誰（と誰）が〈主体〉

「推進組織」、市民、市民団体、事業者、行政

○ 誰（と誰）に〈対象〉

児童、青少年、市民

○ 何をするか〈内容・手法〉

1. 千里自然エネルギーの丘プロジェクトチームの設置

グリーンファンド（p18）に「千里自然エネルギーの丘プロジェクトチーム」を設置し、市民や事業者などからの基金を募る。

（1）千里北公園の選定理由

- ① 風力が期待できる。⇒風力発電の採用も可能
- ② 近くに青少年野外活動センターがある。⇒青少年に対する啓発が可能
- ③ 「竹灯りの宴」の開催など多くの市民が集まる。⇒多くの市民に対する啓発が可能

（2）設置手順

- ① 各地の事例調査
- ② 協力団体の参加呼びかけ
- ③ 設置場所及び設置する自然エネルギー施設の検討
- ④ 設置後の活用方法の検討

2. 設置後の活用方法について

- （1）行政や市民団体などが企画する各種環境講座のフィールドワークとして活用
- （2）自然エネルギーや地球温暖化に関する説明パネルだけでなく、自然エネルギー施設の設置に参画した市民団体などのPRパネルを設置する。

○ 活動の期間

- 1年目：調査・研究
 2年目：協力団体の参加呼びかけ
 3年目：設置に向けた検討

○ 予算〈概略：収入と支出〉

収入：グリーンファンド、補助金
 支出：自然エネルギー施設設置費用

○ 評価の基準

- ・設置に参画した団体数 ・自然エネルギー施設見学者数

